

平成 29 年 8 月 7 日

横浜市長 林 文子様

認定 NPO 法人ホタルのふるさと瀬上沢基金
横浜市港南区港南台 9-30-31
理事長 角田東一

上郷開発は周辺住民の賛同を得ていない

平成 29 年 1 月 17 日栄公会堂で行われた栄区上郷猿田地区都市計画市素案公聴会で、周辺住民の賛同が得られていないとの公述意見に対し、市は「本市として、まちづくりの方針への整合などの 8 つの評価項目に基づき、総合的に地区的将来を見据えつつ、緑地保全とのバランスに配慮した計画と判断し、都市計画手続きを行うこととした。」と回答しています。

しかし、すべてを満たさなければならないとされている 8 つの評価項目の一つ“周辺の住民との調整が整い、概ねの賛同が得られること”を満たしていません。平成 27 年の横浜市都市計画評価委員会は、「本提案地区内の地権者ほぼ全員の同意が得られています。また、提案者による周辺自治会や市民団体に対する説明もそれぞれ行われ、理解を得る努力がされていると判断できます」としている通り、地権者の同意が得られているだけで周辺自治会や市民団体の賛同は得られていません。

開発区域に隣接する少なくとも二つの自治会から反対陳情が提出されています。また、11 万筆以上の反対署名、瀬上沢緑地保全基金への寄付者 14 千人以上、圧倒的多数の反対意見書、整開保公聴会で全員が反対口述、線引き広聴会で全員が反対口述、上郷開発公聴会で過半数の反対公述など、周辺住民を含む圧倒的多数が反対しています。

横浜市は、地権者の同意と事業者が理解を得る努力をしているから周辺住民の賛同は得られないなくてもよいという、詭弁で開発を容認しました。

8 つの評価項目の重要項目“周辺住民の賛同”を得られないまま、“都市計画の決定及び変更をする必要がある”との判断は誤りではないでしょうか。

市長選で横浜の緑地保全を望む多くの票が他に流れたことを踏まえ、林文子市長はどのようにお考えか伺います。

ホタルのふるさと瀬上沢基金は、市民と協力して、長い間守られてきた瀬上沢緑地を取得・借用・保全を通じて地球環境を守り、子供や孫たちの世代に豊かな自然を残す為に活動しています。

H29.6.10 現在 会員：206 名 寄付：14,711 名 1,021 万円